

講座番号

7

ひきこもり—その現状と今後の課題

配信期間／6月14日～8月31日

受講料／4,000円(全4回)

内閣府の調査では、15歳～64歳のひきこもり状態の人は全国に100万人以上いると推計されています。本人と親の高齢化も進み、ひきこもり状態にある40～50代のわが子を、70～80代の親が支える世帯の深刻な現象を「8050（はちまごーまる）問題」「7040問題」と呼んでいます。

本講座では、ひきこもり支援の実践者、ひきこもり経験者らを交えて、現状と問題の所在を明らかにしながら、当面の課題や問題解決の方途について考えていきます。

回	テーマ	内 容
1	「8050」「7040」問題が問うもの	<p>高齢の親子が同居する家庭が増えています。背景に低い収入や長期の無報酬状態がありますが、可視化しにくい「貧困」ともいえます。「8050」「7040」問題とは、ひきこもりに限らず幅広い概念ですが、共通して言えることは、親の死後、生活問題が顕在化することです。いま私たちの社会は、この問題のどば口に立っています。本人一家族—社会における問題の所在と展望を鼎談によって深めます。</p> <p>講師／NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク理事長 田中 敦 講師／北海道新聞記者 末角 仁 コーディネーター／札幌学院大学名誉教授 二通 諭</p>
2	ひきこもり経験者・支援者として言えることⅠ—30代前半から	<p>不登校ひきこもり16年間から専門相談機関に一步踏み出そうと思ったきっかけや親が家族会に参加していたことの意義、居場所を紹介され足を運んだことによる価値観の広がり、初めてのアルバイトなどについての率直な感想を語ります。</p> <p>講師／ピアスタッフ 尾澤 基 コメンテーター／田中 敦 コーディネーター／二通 諭</p>
3	ひきこもり経験者・支援者として言えることⅡ—30代後半から	<p>ひきこもりの要因は多様でうまく進まない背後に発達障害的傾向があったりすることも少なくありません。＜生きづらさ＞という言葉が象徴するように場面緘黙で不登校ひきこもり経験者の立場から自分と社会との間につくられる障壁について語ります。</p> <p>講師／ピアスタッフ 大橋 伸和 コメンテーター／田中 敦 コーディネーター／二通 諭</p>
4	ひきこもり経験者・支援者として言えることⅢ—40代後半から	<p>刑務所に入るか自死を選択するかまで追い込まれた経験、自分を受け止めてくれない苦悩から心理学に関心をもち国家資格を取得するが、実務経験がないうえ年齢の壁で就労選択肢が狭まる状況。親も高齢化していくなかでの思いを語ります。</p> <p>講師／ピアスタッフ 吉田 英司 コメンテーター／田中 敦 コーディネーター／二通 諭</p>

講師紹介

二通 諭(につう さとし) 1951年2月6日札幌郡手稲町に生まれる。1974年北海道教育大学札幌分校卒業後、石狩管内小中6校で35年間の教員生活を送り、2009年から札幌学院大学教員として主に特別支援教育関連科目を担当。2019年4月より札幌学院大学名誉教授。2011年、札幌学院大学において、発達障害や精神的な困難を抱える学生の自助グループ「雑談会」を立ち上げる。著書として『映画で学ぶ特別支援教育』(11/8/25)、『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』(15/8/9)がある。連載「映画に見るリハビリテーション」(医学書院:『総合リハビリテーション』)は24年288本に達している。

田中 敦(たなか あつし) 1965年札幌市生まれ。北星学園大学大学院修了。不登校ひきこもり経験者として1999年に当NPOを立ち上げ当事者主体のピアサポート活動に取り組む。近年の主な著書として『苦労を分かち合い希望を見出すひきこもり支援-ひきこもり経験値を活かすピアサポート』(学苑社, 2014)などがある。福祉活動の功績により社会福祉法人札幌市社会福祉協議会会長顕彰受賞(2019年)。

末角 仁(すえかど じん) 1979年札幌市生まれ。2001年北海学園大経済学部卒業。2002年北海道新聞社入社。土別支局や編集本部などを経て2018年3月から3年間、生活部(現・くらし報道部)で特別支援教育やひきこもりなど福祉分野を取材。

尾澤 基(おざわ もとい) 1990年生まれ。中学1年の頃から不登校になり、その後16年間ひきこもりを続ける。28歳のときに札幌市ひきこもり地域支援センターに相談。センターからの紹介で「よりどころ」当事者会に参加する。2019年度当NPOが主催したひきこもりサテライトカフェ事業にてピアスタッフとしてデビュー。研修会の講師をはじめマスメディアなどにも登壇し、現在は「よりどころ」当事者会のひきこもり経験者ピアスタッフとして活躍中である。

大橋 伸和(おおはし のぶかず) 1984年生まれ。11歳頃から24歳までの約13年間場面緘黙症となり、小中学校の不登校、高校卒業後のひきこもりを経験。様々な支援を受けながら、25歳で札幌学院大学人文学部人間科学科に入学。在学中から現在に至るまで自身の経験をもとに講演活動を行い、2018年から札幌市の集団型支援拠点「よりどころ」で支援実践を展開。近年の論稿として「場面緘黙とひきこもり—自分史をふりかえって—」(『SNEジャーナル』24巻1号, 文理閣, 2018)などがある。

吉田 英司(よしだ えいじ) 1975年札幌市生まれ。中学時代の「実存的悩み」から不登校・ひきこもりを経験。宗教に救われたが、のちに決別。大学費用を得るため、安定性の点で人気の高い職に就いたが、そこで多くの同僚の自死を目の当たりにし、ショックを受ける。2015年、大学院進学のため退職。帝京平成大学大学院を修了後、臨床心理士および公認心理師資格を取得。

オンデマンド講座 受講方法

受講にあたり下記のシステム環境が必要です。各自で環境の準備と確認をお願いします。

1. パソコン、タブレット、スマートフォンなどの端末
2. インターネット環境

お申込みののち、お振込みの確認ができた方へ、講座視聴のための ID とパスワードをお送りいたします。

ID とパスワードを講座視聴の次の画面に入力してご視聴ください。お申込みの講座ごとに ID とパスワードは異なります。

ログイン

https://xxxxxxxxxxxxx

ユーザー名

パスワード

オンデマンド講座は、配信期間中、何度でもご視聴いただけます。

パソコン、タブレット、スマートフォンでのご視聴ができますが、パソコンまたはタブレットでのご視聴を推奨します。

講座資料がある場合はサイトに添付します。講座視聴以外の目的には使用しないでください。

講座視聴ページ「コミュニティ・カレッジ オンライン講座」

https://www.sgu.ac.jp/renkei_c/online-seminar.html



※注意事項

第三者との ID・パスワードの共有や貸与、SNSを含む他の媒体への転載、また、講座で配布した資料を受講目的以外で使用する場合は、不法行為や著作権の侵害になりますので固くお断りいたします。講座の録音、写真撮影、動画撮影、画面の録画は固くお断りいたします。

講座を受講するにあたり、自己の費用と責任で必要となるパソコンなどの情報端末、インターネット回線、その他設備を用意するものとします。

利用者のインターネット回線の状況、情報端末の環境、その他予期せぬ理由により、コンテンツの中断、速度低下、障害、停止もしくは視聴不可などの事態が発生した場合、これによって利用者に生じた損害について本学は一切責任を負いません。

お申し込みから受講までの流れ

①【申込期間】

3月25日(木)～4月13日(火)必着

※受講希望者が開講予定人数に満たない場合は、開講しない場合があります。
 ※定員制限がある講座の定員を超える応募者多数のお申し込みがある場合は、抽選となります。

②【申込方法】 ※英会話はメールアドレスの登録が必要となるため、インターネットでの申込みのみ

①インターネット ②FAX ③ハガキでのいずれかになります。※電話によるお申込みはできません。
 ①インターネットの場合 …… <https://www.sgu.ac.jp/rcc>
 ②FAXの場合 …………… FAX番号:011-807-0373
 ③ハガキの場合 …………… あて先:〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1
 札幌学院大学社会連携センター「コミュニティ・カレッジ」宛

③【結果通知】

4月20日(火)以降に申込者全員に封書で通知いたします。

※受講いただける方には、「受講確定通知書」と「受講料の振込用紙」をお送りいたします。
 ※開講予定人数に満たず、開講できない場合は、講座中止のお知らせをお送りいたします。
 ※応募者多数の場合の抽選結果(受講できない場合)は、封書でお知らせします。
 ※4月23(金)までに受講に関する通知が届かない場合は、お問い合わせください。

④【受講料の支払方法・受講確定】

受講料は、「受講確定通知書」に記載された金額をゆうちょ銀行または北洋銀行の口座にお振込みください。
お振込みが確認できた方へ、講座視聴のIDとパスワードをお送りいたします。

受講料の振込みによって正式に受講確定とさせていただきます。振込みが確認できない場合は受講できませんので、指定された期日までに必ずお振込みください。領収書の発行は原則行っておりません。お振込時の明細書を大切に保管してください。

⑤【受講上の注意】

受講料振込の確認ができた方へ、講座視聴のためのID・パスワードをお送りいたします。ID・パスワードは、第3者へ譲渡、貸与しないでください。

動画を録画・撮影・録音することはしないでください。

講座資料がある場合はサイトに添付します。講座視聴以外の目的には使用しないでください。

講座を受講するにあたり、自己の費用と責任で必要となるパーソナルコンピューターやスマートフォンなどの情報端末、インターネット回線、その他設備を用意するものとします。利用者のインターネット回線の状況、情報端末の環境、その他予期せぬ理由により、コンテンツの中断、速度低下、障害、停止もしくは視聴不可などの事態が発生した場合、これによって利用者にも生じた損害について本学は一切責任を負いません。

講座視聴ページ「コミュニティ・カレッジ オンライン講座」
https://www.sgu.ac.jp/renkei_c/online-seminar.html



【キャンセルに関して】

原則としてキャンセルはできません。ただし、やむを得ない事情によりキャンセルを希望する場合は、「受講確定通知書」に記載された受講料支払期限までに必ずご連絡ください。【TEL: (代表)011-386-8111 社会連携センター】までご連絡ください。お支払いいただいた受講料は、返金できかねますのでご了承ください。

お申し込み前に必ずお読み下さい。 ●受付時間／9時～17時(月～金)

- お申込者以外の方は受講できません。
- 本学「コミュニティ・カレッジ」の講座は、「道民カレッジ」及び「えべつ市民カレッジ」と連携しております。
- 道民カレッジ単位認定希望の方へは、配信終了後、単位シールをお送りいたします。
- 受講生は自動的に「コミュニティ・カレッジ」の会員として登録されます。
- 都合により担当講師が変更になる場合がありますので、ご了承ください。
- 札幌学院大学(その前身の札幌文科専門学院、札幌短期大学、札幌商科大学を含む)の在学学生、同窓生ご本人と、在学学生の保護者の方々には、受講料特別割引制度があります。その旨、お申込み時に明示してください。お申込み時に明示なき場合は、割引制度をご利用いただけません。〔外国語講座は2割引、それ以外の講座は5割引で受講できます。〕
- ご提供いただきました個人情報、今後の講座や札幌学院大学のイベント等をご案内する目的以外には使用いたしません。

お申込み方法

1. ハガキ・FAXによるお申込みは、◎に示す項目を記載のうえ、下記あて先にお送りください。

あて先 [ハガキ] 〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1
 札幌学院大学社会連携センター「コミュニティ・カレッジ」宛
 [FAX] FAX番号 011-807-0373

◎ハガキ・FAX用紙に記載する事項は下記のすべての項目です。なお、記入漏れなどがあると受付処理等ができませんので、ご注意ください。お間違えのないようご記入願います。

〈はがき用切り取り線〉

講座番号	講座名 (※複数記入可)	
フリガナ		
氏名		
〒	—	電話番号 ()
住所		
年齢	歳	職業
コミュニティ・カレッジを受講したことがありますか		はい or いいえ
同窓生本人	卒業年()年()学部	旧姓()
在学生の保護者	在学生氏名 ()学部 ()年	
在学生本人	学籍番号()	
コミュニティ・カレッジ講座を何で知りましたか？(○をつけてください)		
①本学の案内 ②区役所、区民センター ③図書館 ④新聞折込チラシ		
⑤道民カレッジ ⑥友人・知人 ⑦インターネット(具体的に:)		
⑧その他()		

英会話はメールアドレスの登録が必要となりますので、インターネットからお申込みください。

2. インターネットからのお申込みはこちらから。 <https://www.sgu.ac.jp/rcc/>